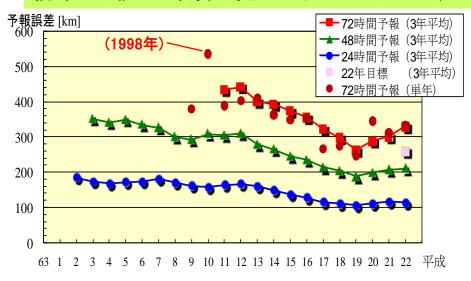
台風予報の精度(台風中心位置の予報誤差)

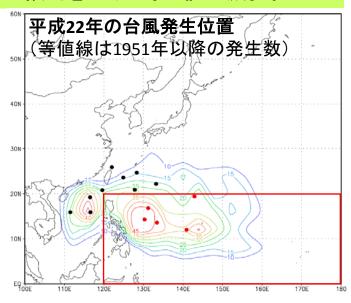
【H22年の目標】

台風中心位置の72時間先の予報誤差*を、H22年までにH17年と比べ約20%改善し、 260kmにする。 * 当該年を含む過去3年間の平均

【H22年の状況】

平成22年の測定値は330kmと、平成21年の測定値301kmより悪化。 平成22年は特に台風の発生が例年に比べて北の緯度の高い海域で多かったこと、 このため、勢力が弱いまま転向・加速するものが多かったことなど、 台風進路予報の誤差を増大させる特別な要因が重なったことが原因。 前年と比較して改善が見られなかったものの、過去の傾向をみるとその値は減少。





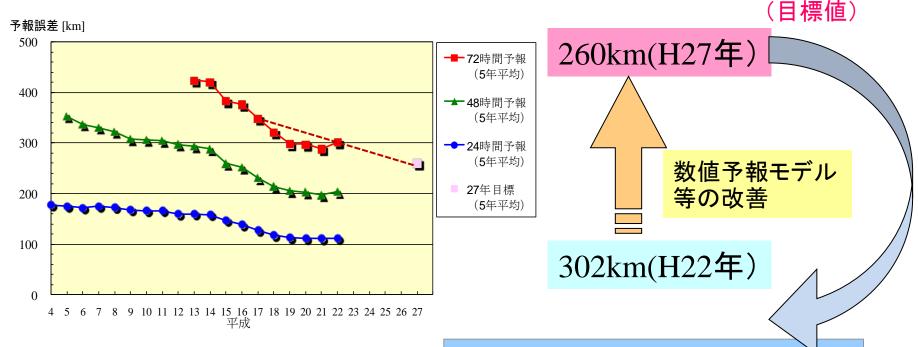
予報誤差が大きかった台風は、高い緯度で発生後すぐに加速・転向した。 フィリピンの東方海上(北緯20度以南、東経120度以東)での発生数は5個(平年値*16.1個)と1951年以降で1998年 の4個に次いで少なく、平均発生緯度は北緯18.9度(平年値*16.2度)、寿命は4.1日(同5.2日)。 (*1971-2000年)

台風予報の精度(台風中心位置の予報誤差)

【新規目標】

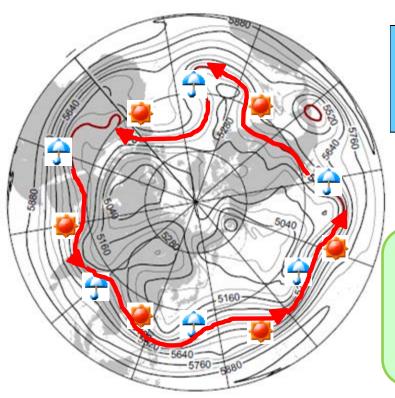
台風中心位置の72時間先の予報誤差*をH27年までに260kmにする。

* 当該年を含む過去5年間の平均



- 72時間予報の誤差は予報技術の改善を代表する。
- ・災害による被害の軽減
- •効果的、効率的な防災対策

数値予報モデルの精度

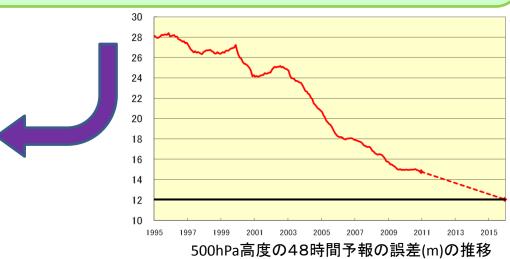


500hPa予想天気図と天気 赤矢印は大気の流れを示す

天気予報・防災気象情報の 精度向上 •500hPaは地球大気のほぼ中間であり、ここの流れが大気全体の流れを代表し、地上の天気と密接に関係している

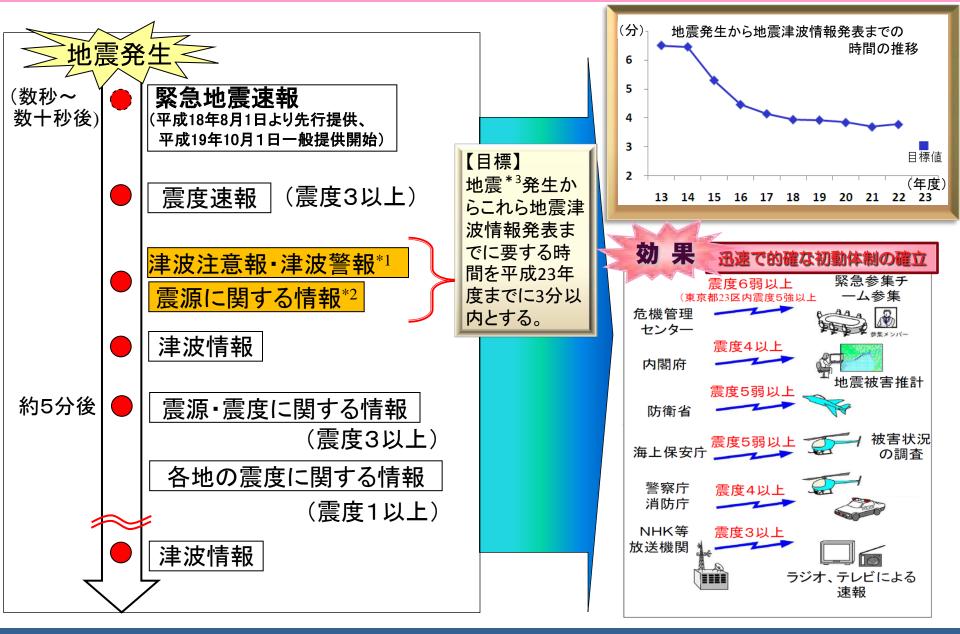


地球全体の大気を対象とした数値予報モデルの2日後の500hPa高度の予測誤差を、平成27年末までに平成22年(実績値14.8m)に比べ約20%改善する。(目標値12m)。



500hPa高度の48時間予報の誤差(m)の推移 太実線は目標値

地震津波情報の迅速な発表(地震発生から地震津波情報発表までの時間)



^{*1}緊急地震速報の技術を活用し津波予報の迅速化可能時には、最速2分で発表。

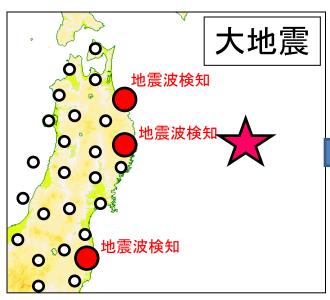
^{*3} 地震発生後10分以内に津波が来襲することのある、 沿岸から100km以内で発生する地震を対象とする。

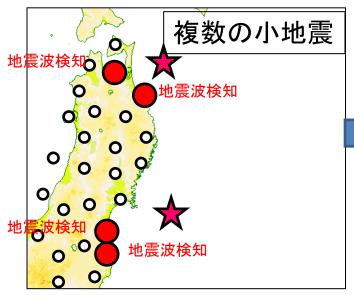
緊急地震速報の精度向上

同時

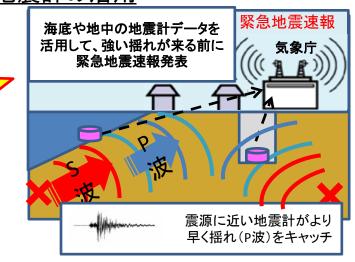
地震判定処理等のプログラム改良

〇同時地震分離手法等の改良





○首都圏の大深度地震計や海底 地震計の活用



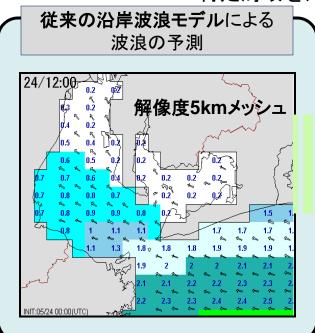
○緊急地震速報の利活用促進

- ・緊急地震速報に関する周知・広報の促進
- •受信端末の普及促進

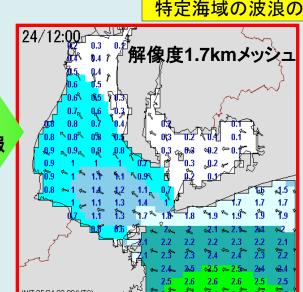


沿岸波浪情報の充実・改善

~特定海域を対象としたきめ細かな波浪予測情報の提供~



技術開発できめ細かな波浪予測情報を提供



- **浅海波浪モデル**による 特定海域の波浪の予測
 - 高い解像度で詳細 な海岸地形に対応
 - ・水深の浅い海域で の波の変形を考慮
 - 一波の屈折
 - 一砕波 (海底摩擦)
 - 一波と波の相互 作用

予測対象海域

<u>現状</u>

(平成22年度) **予測対象海域:5**

- ①東京湾
- ②伊勢湾
- ③播磨灘 予測对象
- ④大阪湾 海域の増
- 5有明海

目標値

- ・平成23年度に7海域以上 追加海域
 - ⑥新潟海岸
 - ⑦仙台湾南部海岸
- ・平成24年度に11海域以上 その他の海域については 実施に向け調整中

